



こんにちは

村田 けい子

9月
議会報告

2021.10
No321
秋季号

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。
移動事務所 090-9144-8534
発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

9月議会から

「PCR検査・抗原・抗体検査を当町でも行うべき！」 一般質問 町「県のコロナ陽性者早期発見促進事業が始まる、検討したい」



3月議会から一貫して求め続けている「検査体制の強化」。町は常に「町独自では考えて居ない」の一点張り、コロナ感染症が流行りだしたときから、町民より「帰省したいといっている子に検査費用の助成を」「特養ホームに入所する際にも陰性証明が求められる。検査費用の補助はないのか」と多くの町民より要望が出されてきました。

医療警報・県の特別警戒レベルⅡとなり、感染の危険が一層増している今「町独自で検査キットの無料配布や検査費用の助成制度が必要ではないか」と質問・要求しました。

9月議会では「県により抗原検査キットの配布が行われるので研究したい」との答弁が。

議会が終わってしばらくすると有線放送で「陽性者の早期発見のため、町でも抗原簡易キットを配布します。」とのアナウンスが流れました。

町のホームページで確認すると、なんと申し込みは9月21～22日（水）のわずか2日間のみ。検査キット引き渡しは9月27（月）28（火）の2日間。

対象者は①蔓延地域へ往來をした人（事前申込必要）②高校3年生または妊婦は申し込み不要ですぐに受けられる としています。すでに96キットが配布済み、（9月29日現在）県からの交付数は210キット。

感染収束が見通せない中、恒常的に検査キットを常備し、町民の求めに応じて配布できるようにすべきです。この時期だけではなく、この後も必要になります。



町外学生に町農産物配布 再び！

8.12 芝間議員と共同で町に申し入れを行いました。そのうちの「町外学生への支援」として、再び町特産品の配布事業が実施されます。

（コメ・味噌・しょうゆセット、リンゴジュースなど）。10月中に順次発送、一人5千円相当、予算50万円

- *以下の項目も申し入れました。
- ・国保加入の一人親方等に傷病手当・見舞金支給を
- ・PCR・抗原・抗体検査などの実施
- ・経済対策の申請についての事務支援など。

《他の町村では》

- ・南牧村では昨年の12月より、検査費用の全額補助か（上限3万円・何度でも）、検査キットの配布（100人分）予算は100万円。
- ・小海町では個人の行った検査に対して上限3万円で何度でも補助制度を作り、この8月までに30件の利用があったとしています。
- ・佐久穂町では9月27日より検査キットを無料配布しますが、キットの配布終了まで（250セット）となっています。

国保加入の事業主にも傷病手当支給を



昨年6月に国保事業で初めて傷病手当金制度が導入されましたが、被用者（雇用されて給与をもらう人）のみ。給与の3分の2が療養日数に応じて支給されます。ところが、個人事業主にはその規定が

ありません。コロナで仕事を休んでもその補償がないのです。「ぜひ作るべきでは。」と求めました。

当町では、国保加入者で個人事業主といえば、農業・ペンションなど観光宿泊業、飲食業、大工・左官屋などの自営業など多くの住民が対象です。

コロナにり患し、あるいは濃厚接触者となり休職を余儀なくされる点では被用者以上に大打撃です。傷病手当金や見舞金（辰野町では一律7万円）制度が必要。国保加入世帯は1,117世帯。その大半が個人事業主ではないでしょうか。

制度として備えておくことが大事、安心につながります。予算としては少額で済みます。



豊穣の秋 ことしも

今年は遅霜などがあり、リンゴや桃、プルーンなど果樹は全体に品薄です。でも甘さは十分。おいしい果物をいただいています。農家のご努力のたまものと感謝しています。

田んぼが黄金色に色づき、稲刈りが始まり、野良に稲刈り機のエンジン音が響きます。家族総出での稲刈り。田の畔でいただく「おコビレ」は格別です。

今月のパチリ！



【村田の一般質問】 公共交通の改善について

- 1、中仙道線の佐久市・立科町共同運行についての課題と打開策は？
 - ①平日日中のデマンド交通の導入を
 - ②観光客対応を含め、土日祝祭日の対応は。
- 2、福祉型デマンドタクシーの料金を値下げし、毎日運行のデマンド交通に一本化を

平日日中については提案として利用者を登録制にして、タクシー料金の補助制度を作ること（御代田町は300円で1,000円分の距離が乗れる）や佐久市との共同利用、町独自のデマンドタクシーなどを提案。土日運行についても求めました。町は「タクシー料金補助に近い方式を検討中」と応えました。

2についても、「福祉型」を名乗るのであれば、「障がい者は半額」の国の基準もあり「1回600円は高すぎ。スマイル交通レベルに引き下げれば」と提案。

佐久市では、定時定路線は廃止、原則デマンドタクシーで対応。75歳以上、障がい者、妊婦、自主免許返上者は「ドアから目的地」まで料金は一律200円。私は現在のスマイル交通利用の実態からバスの定時定路線は「朝夕の幹線ルート」だけとし、あとはすべてワゴン車クラスのデマンド交通にすべきではないか。と提案。

「立科町の公共交通改善についての陳情・要望書」全会一致で採択

立科町公共交通を考える会より出された上記の陳情・要望書は、9月9日総務経済常任委員会に付託され、審議の結果全会一致で採択され、本会議でも「異議なし」採択されました。

この陳情は、10月1日から千曲バスによる運行廃止を受けて、佐久市・立科町が共同で路線バスを確保、運行する予定。料金は200円に。ただし、平日は立科町役場前発7時台が2便、夕方は医療センター発16:00台となっており、日中はバス便がありません。また土日祝祭日は「運行無し」となっています。こうした事態を受けて、町の公共交通を抜本的に見直すことをもとめる陳情となっています。

町にも同様の陳情が出ており、議会が採択することで、町に対して大きな力となります。



令和2年度の一般会計決算認定について、おおむね事業執行では妥当との判断ですが、以下の問題を指摘しました。

令和2年度 決算審査より

【問題点の指摘】

- 1、職員の働き方について…令和2年4月に過労が原因かと疑われる職員の死亡事故があったが、その後の対応がどうだったか。
職員の長時間勤務の解消や職場の業務分担、残業が残業としてカウントされ手当に反映されているか、など働き甲斐のある職場へ向け、どのように改善されたかが不明。
- 2、佐久食肉センターの廃止をめぐる当町の取り組みが後手後手であり、『蓼科牛』を守るためのイニシアチブの発揮が見られなかったのではないかと。
- 3、税金、国保料金などで未納額が膨らんだが、減免制度の利用も少なく、税務だけでなく、担当課も積極的に住民の生活実態をつかんで対応することが必要ではないか。

蓼科牛の肥育農家に運搬費支援

補正予算 45.2万円（令和3年度分）

*対象者 立科町に住所、事業所があり、平成30年度から令和2年度までの3年間に佐久広域食肉流通センターにおいて屠畜実績がある事業者

対象頭数…最大牛228頭、豚1,644頭



①佐久広域連合からの補助

（遠方になったことによる運搬経費補填）

牛1,100円（松本・中野）、3,190円（栃木）…最大激変緩和措置として3年間の補助

令和3/100%、令和4/80%、令和5/60%

②町の補助は運賃値上げによる料金改定分

・牛1頭当たり、1,980円

・広域連合補助が漸減する分の補填

令和3/0% 令和4/20%分、令和5/40%分

旧若草保育園跡地(8.11臨時議会)・茂田井保育園跡地(9.16)それぞれ地元企業に売却。

*旧若草保育園跡地 面積 5398.45㎡ 2501万円。
地元説明会も開催され、小学校・保育園の跡地でもあり、記念の石碑があることから、一部公園化の要望があり、今後、56.57㎡分を分筆し整備する予定。

*旧茂田井保育園…地元福祉法人に売却。

面積 2428.88㎡ 床面積 377.94㎡ 742万円。

取得企業は町内で障がい者の作業所を営む法人。茂田井の保育園に向かう十字路は大変狭く、また見通しが悪いことから「今後整備が必要ではないか」と発言。

*三葉保育園跡地は宅地分譲へ、千草保育園跡地は今後の用途については、ふるさと創生会議からも文化芸術など町民の交流文化拠点としての整備を提案されています。企業への提供も選択肢の一つです。

これでいいか?! 指定管理者のいうなり

ゴンドラ利用料の大幅値上げ 3人が反対

降雪マシンの大量導入（2億1300万円）に加え、冬山料金の大幅値上げ（一日4千円から4800円に。シーズン券4万円から6万円に）の議案が可決。

審議の中で町は指定管理者言いなりで料金値上げを提案したことが明らかに。「企業が仕事がかしやすいうに」とのこと。町営のメリットはどこに？